

# ヤングケアラーに対する配食支援モデル事業の実施状況について

## ヤングケアラーに対する配食支援モデル事業の実施状況について①

- ヤングケアラー・若者ケアラー（以下「ヤングケアラー」という。）に対する配食支援事業の効果を検証するため、事業の実施状況を兵庫県及び神戸市の窓口を通じてアンケートを実施
- 調査対象者（1月末までの対象者）46世帯（兵庫県窓口20世帯、神戸市窓口26世帯）
- 配食事業の対象となったヤングケアラーは、小学生と中学生が最も多くなっている。

### 1 対象者の住所

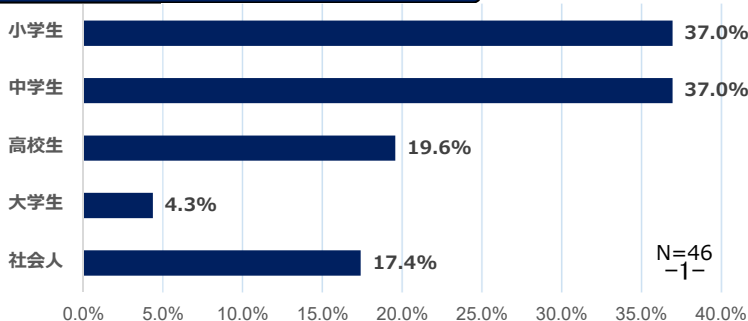
○県窓口20世帯の内訳

市 町	世帯数
姫路市	4
明石市	4
尼崎市	3
伊丹市	3
市川町	2
赤穂市	1
高砂市	1
加東市	1
加西市	1
合 計	2 0

○神戸市窓口26世帯の内訳

区 等	世帯数
垂水区	8
中央区	4
長田区	4
兵庫区	3
東灘区	2
西区	2
北須磨支所	2
北区	1
合 計	2 6

### 2 ヤングケアラーの状況（複数回答）

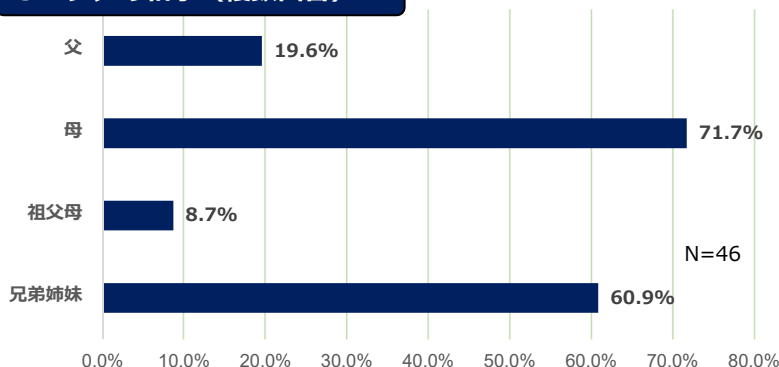


	人 数
小学生	1 7
中学生	1 7
高校生	9
大学生	2
社会人	8

## ヤングケアラーに対する配食支援モデル事業の実施状況について②

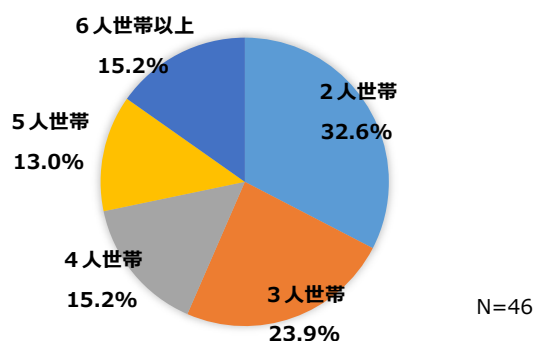
- 配食事業の対象となったヤングケアラーのケアの相手については、母が最も多く、次いで兄弟姉妹、父の順になっている。
- 世帯人数では、2人世帯が最も多いが、5人世帯、6人世帯以上の多人数世帯も含まれている。
- 配食開始時期は、事業がスタートした10月は少ないものの、11月以降増加した。

### 3 ケアの相手（複数回答）

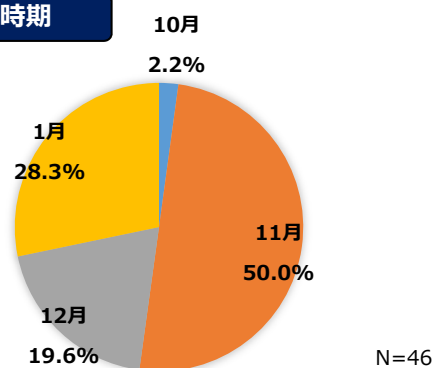


項目	人数
父	9
母	33
祖父母	4
兄弟姉妹	28

### 4 世帯人数



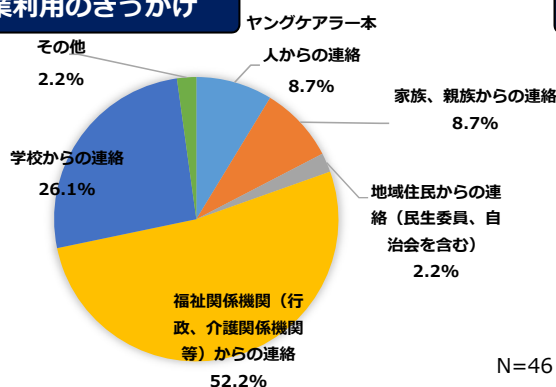
### 5 配食開始時期



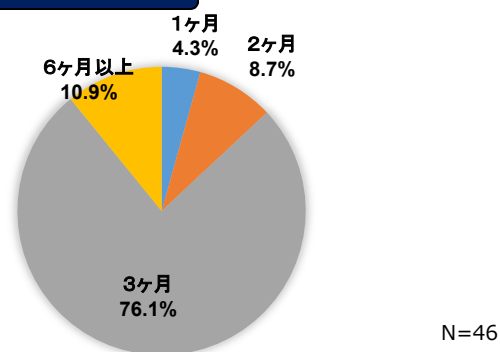
## ヤングケアラーに対する配食支援モデル事業の実施状況について③

- 配食事業の利用のきっかけについては、福祉関係機関（行政、介護関係機関等）からの連絡、次いで学校からの連絡が多く、ヤングケアラー本人や家族からの連絡は少ない。
- 配食期間については、3ヶ月が最も多いものの、ヤングケアラーの状況によって6ヶ月に延長している場合もある。

### 6 配食事業利用のきっかけ



### 7 配食期間（予定も含む）



### 8 配食期間を短縮した主な理由

- ケア対象・ケアラーともに施設入所となったため
- 「イスラム教徒」の家族であり、「ハラール食材」ではなかったため

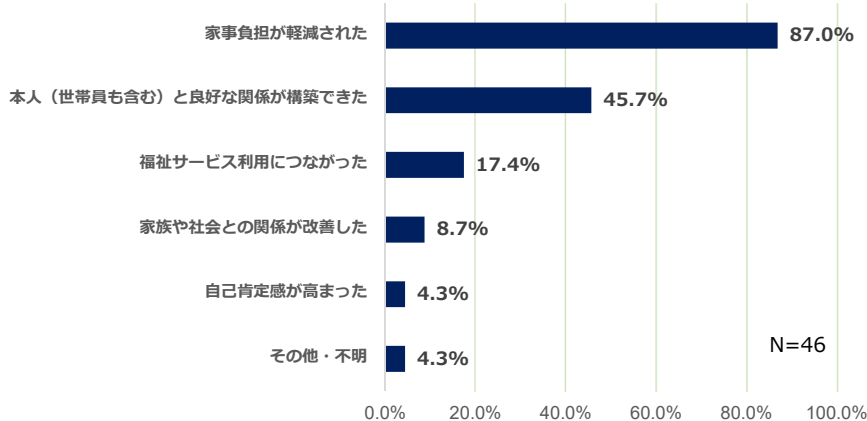
### 9 配食期間を延長した主な理由

- ケアラーの自立までにもう少し時間が必要なため
- ケア対象者の支援の方向性が決まるまでに時間を要するため
- ケアラーの家事負担が減っていないため
- 支援者間の協議で改善策が定まっていないため
- 3か月では福祉サービスの調整が困難で、さら-2- に調整に係る期間が必要となったため

## ヤングケアラーに対する配食支援モデル事業の実施状況について④

- 配食後のステップアップの状況（ヤングケアラー等の状態像の変化）については、家事負担が軽減されたが最も多く、次いで、本人との良好な関係が構築できた、福祉サービスの利用につながったとの回答が多くなっている。

### 10 3ヶ月配食支援後のステップアップの状況（ヤングケアラー等の状態像の変化）



項目	人数
家事負担が軽減された	40
本人（世帯員も含む）と良好な関係が構築できた	21
福祉サービス利用につながった	8
家族や社会との関係が改善した	4
自己肯定感が高まった	2
その他・不明	2

### 11 その他状態像の変化

- メニューを考え、買い物に行き、料理を作り、後片付けをするという一連の負担感が減って助かった。
- 保護者が子どもをヤングケアラーだと認識できる(受け入れる)ことができた。
- 支援者(学校関係者)がヤングケアラーとして様子を気にしてくれるようになった。
- 体調がよくなった。(検査値が正常になった)
- お弁当のおかずを先生に伝えてくれる。
- 本人の負担を軽減するため、家族・兄弟に少しずつ手伝ってもらえるようになった。一人で抱えまななくなった。
- 他の支援機関などにつなぐことに対する抵抗感が軽減した。

## ヤングケアラーに対する配食支援モデル事業の実施状況について⑤

### 12 家族・関係者からの声

- 家族との関係がよくなり、新たな支援などを提案し、受け入れてもらった。(支援者)
- ケアラーである子どもは喜んでいるが、親には特に効果は感じてもらえていない。(支援者)
- 大半(特に保護者)の方は助かっていると話されるが、そこから1歩前に進むのに躊躇している感じがする。
- 配食サービスの味や対応に対して、感謝の意を表される家族があった。
- 支援者の会議において、子どもは助かっているが、親のパワーレスになってしまっているのではないかという声もあった。
- お弁当が美味しく、子どもたちが嫌いな野菜を食べることができた(母談)
- お弁当が美味しく、きょうだい喜んだ(本人談) ご飯を炊く回数が減った(母・本人談)
- 高校生以上のケアラー(特に男性)から、おかずの量が少なく、味が薄いという意見がありました。
- 配食日には夕食の準備をしなくてよいと思うだけで、気持ちが軽くなって落ちついて過ごせた。
- これなら、子どもだけでも食べることができるので良かった。
- 配食のある日は、買い物に行かずに済むので、自分の時間が持てるようになった。
- 家族が多いので、配食のある日は他の仕事や用事ができて助かった。